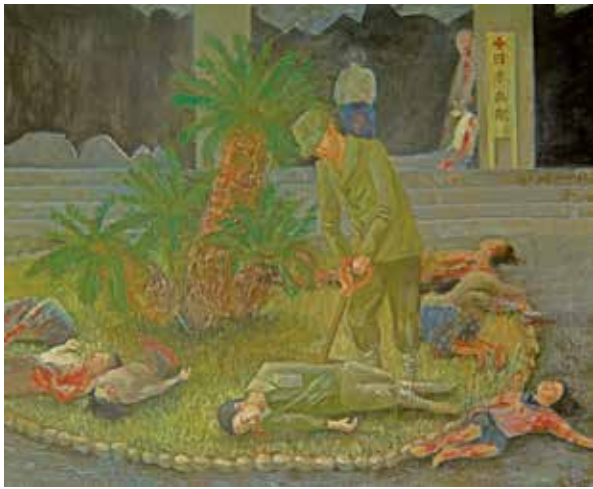


「原爆の絵」(被爆80周年施策)

広島市立基町高校で美術を学ぶ生徒が、2007年から被爆者と共同制作している「原爆の絵」の中から、動員学徒関連の15作品を、被爆者氏名、生徒氏名、作成時の被爆者の感想、絵を描いた生徒の感想などとともにご紹介します。

「原爆の絵」は、被爆体験者の心に深く記憶している悲慘な光景を、リアルな絵に再現して、後世に伝え残していくための貴重な作品です。会員のみなさまにおかれましては、生徒が被爆者の証言をもとに作成した絵の言葉や文字ではとても表現できないリアルな実相に触れていただき、動員学徒の原爆被害の悲慘さ、平和の重要性について、再確認していただければ幸いです。

また、完成した「原爆の絵」は平和記念資料館に寄贈され、それぞれの証言者が修学旅行生などに被爆体験を話す際に、当時の状況をより深く理解してもらうためなどに使われています。



1 日赤病院前の無傷の死体

被爆体験証言者 浅野 温生 / 70回生 前田 葉月

■描いた場面

8月8日午後、やっと逃げてきた日赤病院前の前庭には蘇鉄を囲むように被爆者の死体が転がっていた。(爆心地から1.2キロメートルの場所)

■生徒のコメント

8月6日にヒロシマで起こった事について、原爆の絵を制作する前より深く知ることができたので、これを後世に伝えていきたいです。

■被爆体験証言者のコメント

72年も前の歴史みたいな話なので、言葉で伝える難しさを実感しました。



2 兄妹で父親を火葬

被爆体験証言者 笠岡 貞江 / 74回生 田邊 萌奈美

■描いた場面

当時12才の笠岡さんは、お兄さんと工面したお棺にお父さんの遺体を納め、港近くの広場で木切れを集めて火葬した。その広場では他にも多くの人が火葬をしており、悪臭と煙が漂っていた。

■生徒のコメント

私は、笠岡さんに火葬を行った際には「疲れや非現実感から涙などは出ず、無表情だった」と言われたことがとても印象に残っています。そのためこの

絵では、そうした戦争のもつ理不尽さが伝わるよう、人の表情をあえてあまりつけずに描くことを意識しました。

■被爆体験証言者のコメント

生徒さんは想像できない事ばかりで難しかったと思います。何度も修正し、何回も色を重ねて日数をかけて完成したのですね。ありがとうございました。



3 原爆投下後、初めて行った学校で

被爆体験証言者 笠岡 貞江 / 66回生 永井 攻

■描いた場面

原爆が落とされた数日後、笠岡さんが友人と共に死体を集めている最中に倒壊した学校の壁を見つけた。それを持ち上げると生焼けの死体が横たわっていた。

■生徒のコメント

今回原爆の絵の制作に携わらせていただいて、改めて戦争の悲慘さを感じました。

実際に見たことのないものを描き、

証言者の方の貴重なお話を聞くことができ、本当によい経験になりました。



4 校庭で、原爆で亡くなった人のお骨を拾う

被爆体験証言者 笠岡 貞江 / 75回生 大道 葵

■描いた場面

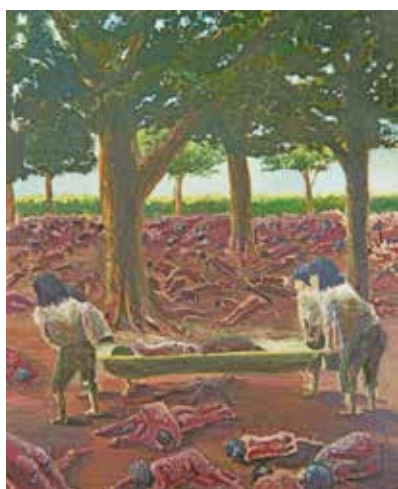
戦争が終結後に、同級生と女学校に行きました。校舎は焼けていて校庭が広く感じられました。焼け跡の校庭に、亡くなった生徒達のお骨が白い小石のように散らばっていました。

私たちはそのお骨を茶碗のかけらに拾い、決められた缶に集めました。先生もいらっしゃったので、指示通りに動きました。集めたお骨の中には友達の遺骨もあったと思いますが、何の感情も起

きなかったのが不思議です。これも戦争のせいだと思います。戦争は絶対にしてはならないことです。

■被爆体験証言者のコメント

生徒達の多くのお骨。拾うときは無表情であっても、見る人は何かを感じて下さると思います。戦争、原爆の悲惨さがここにもあります。



5 大芝公園へ負傷した友人を運ぶ

被爆体験証言者 梶本 淑子 / 68回生 出上 達也

■描いた場面

梶本さんが被爆した場所から友人と建物から這い出した後、友人と梶本さんを含めた4人で、負傷した友人を担架で運んでいるところ。

■生徒のコメント

僕は油絵が苦手だったのですが、苦手なりに一生懸命描いたので、僕と梶本さんの伝えたいメッセージと、原爆の悲惨さが伝わればよいなと思っています。

■被爆体験証言者のコメント

平和な世の中に生まれ育っておられる人に地獄の様な風景を話しても理解できるだろうかと心配しましたが、立派な画が出来てうれしいのと、私の体験を伝承出来たことを喜んでいます。



6 物理化学室で被爆女生徒を手当てする様子

被爆体験証言者 切明 千枝子 / 73回生 西岡 優

■描いた場面

8月6日に、女子専門高等学校の物理化学教室で、建物疎開作業中に被爆した女学生を、薬や新しい油が貴重なために手に入らなかったため、使い古しの油を生徒たちの体に塗っている様子。

■生徒のコメント

今後この絵を見る人たちに当時の惨状を知っていただき、平和の大切さを訴えることができればいいなと思います。

■被爆体験証言者のコメント

建物疎開の後片付けに動員されて被爆した下級生が、全身大火傷で、何人かは学校へ戻って来ました。寝かせて介護をしましたが、苦しみ、もがきながら全員亡くなりました。



7 全身火傷で学校へ戻ってくる下級生たち

被爆体験証言者 切明 千枝子 / 73回生 岡田 友梨

■描いた場面

切明さんは8月6日原爆投下直後に、女子専門学校に戻っていました。屋近くになって、建物疎開の後片付けのために広島市中心部で被爆した下級生たちが帰ってきました。

彼女たちは、誰か判別ができないほどに顔が腫れあがり、皮膚が剥け、手の指や足首からは真っ黒になった皮膚を引きずっていました。

■生徒のコメント

下級生たちの様子を見た切明さんの気持ちはどれほどのものだったのだろうと考えると、胸が苦しくなります。

■被爆体験証言者のコメント

広島は一発の原爆によって火の海になり、多くの方々が無惨な死を遂げました。その時の惨状は、写真が残されているわけではありません。そこにいた私たちが記憶しているのみです。闇から闇へ消してしまってはならない事実を絵にしてくださって感謝しています。



8 叫び、苦痛、そして怒り

被爆体験証言者 國重 昌弘 / 63回生 野邑 遥香

■描いた場面

原爆で火傷を負い、命からがらに帰宅した國重さんが母親に押さえつけられ、ケロイドになるのを防ぐために火傷した皮膚を父親にピンセットで剥いてもらうところ。

■生徒のコメント

この絵を描いて、私たちの世代が体験したことのない「戦争」というものがより具体化できたと思います。

■被爆体験証言者のコメント

下絵が仕上がったのを見て、思わず顔をそむけた。私がお願いして絵にいただいたのに、私自身がその絵をじっと見ることができない仕上がりになっていました。あの痛さが今でもよみがえってきます。



9 8月6日の空

被爆体験証言者 國重 昌弘 / 64回生 坂本 茜

■描いた場面

当時14歳だった國重さんが練兵場で被爆された時の様子。原子爆弾が炸裂して、青い夏の空に、白く巨大なきのこ雲が現れたところ。

■生徒のコメント

油絵ならではの雲の色の鮮やかさや迫力を少しでも出すことができてよかったです。

この絵を制作したことで、原爆というものがもたらした被爆者の方々への辛さ

や悲しみの大きさを改めて感じました。

■被爆体験証言者のコメント

顔と左腕を焼かれて、言葉にならないほどの痛さに襲われたにもかかわらず、その原子雲に一瞬にして目を奪われた。雲が消えた後、真夏の太陽に照らされて、焼かれた顔と左腕の痛みは何倍にもなった。



10 忘れられない～あの眼

被爆体験証言者 兒玉 光雄 / 64回生 富田 葵天

■描いた場面

避難している時、倒れた長い塀に腰まで挟まれ、髪を振り乱しながら助けを求めている婦人に足をつかまれ、その手を振り払った場面。

■生徒のコメント

私は校への関心が高まっている今、この原爆の絵を通して次の世代へ原爆の悲惨さを伝えていくための手助けとなれるように努力しました。

■被爆体験証言者のコメント

突然に私の足を掴んで助けを求める婦人の手を、私は無情にも払いのけました。見知らぬ被災者を置き去りにしたことは、今でも呵責の念にさいなまれて、助けを求める婦人の懇願する様な目が今でも忘れられません。修羅場で自分だけが助かった悔恨の気持ちが今も消えません。



11 倒壊校舎からの脱出

被爆体験証言者 兒玉 光雄 / 64回生 花岡 美優

■描いた場面

倒壊校舎から脱出して、材木に挟まってしまった友人を助け出そうとしている場面。

■生徒のコメント

平和意識の高い広島で生まれ育ち、小さい頃から平和学習などをしてきた私たちには、原爆が投下された当時のことを次の世代の人達へ語り継いでいき、平和意識の輪を広げていく義務があると思います。その為に、今回制作した絵が少し

でも役に立てたら、と思います。

■被爆体験証言者のコメント

爆心から800m余りの古い木造平屋校舎内で被爆。校舎の下では級友が腕や脚を挟まれて救助を求めています。夢中になって数人を引っ張り出しました。やがて黒い闇のとばりが消える頃、近くのビルの窓から炎が吹き出て、遠くに見える福屋や中国新聞社も炎に包まれました。校庭のユーカリの樹は幽霊のようです。



12 人間檻樓(らんる)の群れの中に

被爆体験証言者 児玉 光雄 / 68回生 津村 果奈

■描いた場面

御幸橋方面に続く電車通りで、爆心地方面からボロボロを纏ったような悲惨な姿をした被爆者の大行列に遭遇する。一様に両手を前に突き出し苦痛の唸り声と、「水」「ミズ」の呻き声。その行列の中に、左目が飛び出し眼球を左掌に抱えた青年を見て寄り添って歩いた。

■生徒のコメント

この絵が、一人でも多くの人に原爆の恐ろしさ、平和の大切さについて考えて

もらうきっかけとなれば幸いです。

■被爆体験証言者のコメント

最初は驚きながらも、次第に被爆状況を納得していく女高生が、つらい気持ちによく耐えて真正面から取り組んでくれた姿勢に感謝しています。

※檻樓(らんる)：ボロボロの衣服



13 「友達を助けてくれ!」「火が廻って来たぞ、逃げろ!」

被爆体験証言者 児玉 光雄 / 70回生 宮本 陽菜

■描いた場面

倒壊した校舎の中で、頭から顔にかけて無数のガラス片が刺さり血みどろの頭にゲートルで止血している友に、私は宙吊りになった友を「助けてくれ!!」と必死で叫びましたが、彼は「火が廻って来たぞ、逃げろ!」と口から血を吐きながら恐ろしい顔で叫びました。

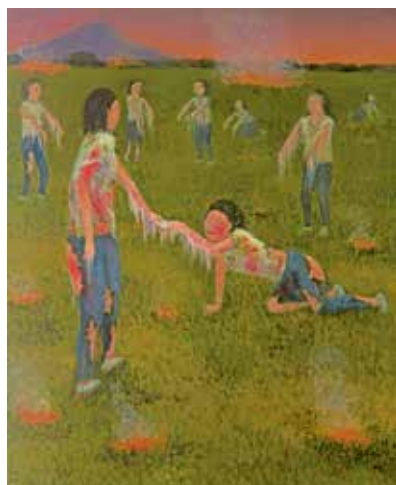
■生徒のコメント

今回、証言者さんのお話を何度も聞き、それを絵に表す、という貴重な体験

をさせていただいて、原爆の恐ろしさや被爆者の想いをあらためて痛感することができました。

■被爆体験証言者のコメント

倒壊校舎と共に生きたまま焼かれていった、多くの友達の冥福を祈ります。



14 被爆した女学生達

被爆体験証言者 森田 節子 / 64回生 西家 奈津

■描いた場面

原爆が投下され、辺りがまだ薄暗い中で、自分の怪我には気が付かず、近くにいた怪我のひどい友人を起き上がらせようと右手を引っ張ると、その人の右手の皮膚を取ってしまった。

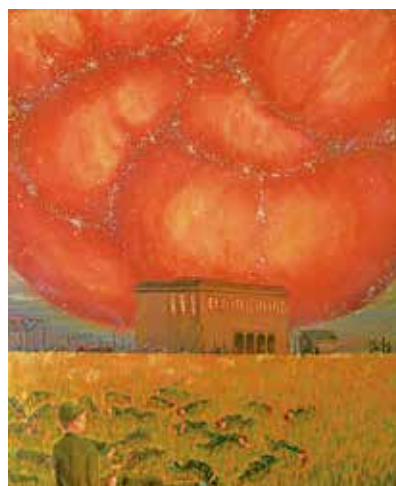
■生徒のコメント

この悲惨な体験が忘れ去られることがないよう、私の描いた絵が後世へと語り継いでくれると嬉しいです。

■被爆体験証言者のコメント

芋畑で失神し、数分後に気がついた時、周りは夕暮れのような景色に変わっていました。

その中で見た同級生の姿は亡霊のように変わっていました。近くで立ち上がる友達の様子だけをしっかりと目に焼き付けております。



15 東練兵場からみた巨大な火炎

被爆体験証言者 山本 定男 / 69回生 石田 菜々子

■描いた場面

二中2年生二百数十人は、爆心地から約2.5kmの場所の東練兵場で芋畑の草取り作業をするために集合していた時に被爆し、強烈な熱風でみんな吹き飛ばされた。広島駅の方角を見ると、巨大なピンク色に輝く火炎がもの凄い勢いで湧き上がっていた。

■生徒のコメント

この絵が誰かの原爆についての考えや意識が変わる“きっかけ”になって欲しい

です。そして、一度でも良いので自分の手で原爆について調べてみて欲しいです。

■被爆体験証言者のコメント

現在では想像出来ないような場面を描いて頂いたので、ご苦労が多かったと思います。お陰で巨大な火炎が見事に再現されました。これで私の証言も実感をもって話すことが出来ます。